

「江戸時代の三大改革」と 「企業の改革・改善」



1 三大改革

江戸時代に大規模な財政および政治制度の改革は見られるが、その中で「享保の改革・寛政の改革・天保の改革」をもつて江戸幕府の三大改革と呼ばれる。安定期に見えた徳川幕府も様々な矛盾は内包され時代や環境の変化に伴い問題(顕在)化していった。

2 享保の改革

江戸時代中期に第8代将軍徳川吉宗によって主導された幕政改革。名称は吉宗が将軍位を継



いだ時の年号である「享保」に由来する。
主に儉約と増税による幕府財政の再建が目的であったが、先例格式に捉われない制度改革が行われ、文教政策(文化や教育)によって人心を導くこと)の変更、法典の整備による司法改革、江戸市中の行政改革などがある。庶民の要求や不満の声を直接訴願の形で募るための「目安箱」の

設置は行政改革の一つである。

幕府財政を安定させたという点が評価され、その後に同じく緊縮財政を機軸とした寛政の改革、天保の改革の手本ともなった。だが、一方で四公六民(4割)から五公五民(5割)に引き上げた年貢増徴は農民に負担を強いる政策で、農民にとつての過重負担となつた。

3 寛政の改革

松平定信が老中 在任期間中の1787年から1793年に主導して行われた幕政改革である。第11代将軍徳川家斉の時代。

4 天保の改革

定信は緊縮財政、風紀取締りによる幕府財政の安定化を目指した。一つに自立支援施設である「人足寄場」を設置し、無宿人、浮浪人を江戸石川島(現在の東京都中央区)の寄場で職業訓練、治安対策も兼ねた。

改革は6年余りに及ぶが、役人だけでなく庶民にまで検約を強要したことや、極端な思想統制令により、経済・文化は停滞したことなどで、結果として、定信への信頼の低下や幕閣内で將軍家斉とその実父徳川治済の対立、庶民の反発によって定信は失脚することになった。しかし定信が失脚した後も松平信明など寛政の遺老たちにより、この改革の方針は以後の幕政に引き継がれることになった。

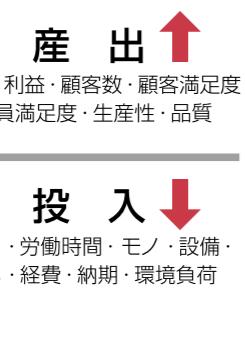
貨幣経済の発達に伴つて逼迫した幕府財政の再興を目的とした。またこの時期には、諸藩でも藩政改革が行われた。第12代將軍徳川家慶の時代で、老中水

野忠邦を首班として改革に着手した。

天保年間には全国的な凶作による米価・物価高騰や天保の大飢饉、百姓一揆や都市への下層民流入による打ち壊しが起つた。検約令を施行し、風俗取締りを行い、芝居小屋の江戸郊外(浅草)への移転、寄席の閉鎖など、庶民の娯楽に制限を加えた。

また、金利政策として、一般貸借金利を年1割5分から1割2分に引き下げた。そして札差の返済を20年賦とする無利子年賦返済令を発布し、武士のみならず民衆の救済にもあつた。しかし貸し渋りが発生し、逆に借り手を苦しめることになった。

天保の改革が行われた時期は既に幕府の権威が低下してきたこと等で結果的には大きな成果はなし得なかつた。



* 史実は諸説あります。本文とは異なる説もありますのでご了承ください。
* 参考文献：藤田覚著「近世の三大改革」(山川出版社)

●イラストはイメージです。

4 天保の改革

5 企業の改革と改善

企業の改革への障害とは

歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑であります。

- 改革と改善は異なる
 - ①人は「新しいもの」に反抗する
 - ②人は「変化」に抵抗する
 - ③人は「批判」に反抗する
- 改善…考え方を変え方を変え効果がある事柄(トップダウン)
 - ムアップが効果的
- 企業における効果とは効果がある事柄(トッピング)
 - ムアップが効果的
- 分母を下げるか分子を上げる